

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	思春期における摂食障害傾向に着目した自己受容促進プログラムの開発および有用性の検討
作成者（著者）	中村, 裕美
公開者	東邦大学
発行日	2023.09
掲載情報	東邦大学大学院看護学研究科 博士論文 内容の要旨及び審査結果の要旨.
資料種別	学位論文
内容記述	主査：岸恵美子 / タイトル：思春期における摂食障害傾向に着目した自己受容促進プログラムの開発および有用性の検討 / 著者：中村裕美 /
著者版フラグ	none
報告番号	32661甲第1090号
学位授与年月日	2023.09.25
学位授与機関	東邦大学
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD28223585

2023年9月6日

審査報告書

学籍番号：ND20001 氏名： 中村裕美

論文題目：思春期における摂食障害傾向に着目した自己受容促進プログラムの開発および有用性の検討

審査日時：2023年9月6日 14:00～15:30

審査場所：セミナー室 402

審査員：主査 岸恵美子 副査： 荒木暁子 伊藤桂子

審査概要：

本研究の目的は、摂食障害の好発年齢である中学生に対する摂食障害傾向に着目した自己受容促進プログラムの開発およびその有用性を検討することである。

本研究は、近年の摂食障害の発症が低年齢化し、予防的介入の必要性が認識されているにもかかわらず、具体的な支援方法は十分に確立されていないという課題に焦点をあてている。この現状をふまえて、中学生を対象に、摂食障害の発症と関連する社会文化的要因および心理的要因や痩せ理想の内面化に着目した介入プログラムの開発に取り組んだことに新規性が認められ、思春期の健康的な生活や認識を促進する活動に活用できることが期待できると考えられる。

研究方法は、第1段階で摂食障害の発症要因について社会文化的側面や心理学的側面の影響を明らかにするための面接調査を実施し、第2段階では先行研究を元に第1段階の結果を活用したプログラムを開発、第3段階ではプログラムの有用性の検討を行うことで構成されている。

第3段階について、プログラム実施中の発言やワークシートの記載内容、評価指標の3時点での比較結果から一定の効果があったことが述べられた。これについて、データの比較による検証結果がプログラム自体の有用性と明言できるかが指摘され、プログラム後の感想などから対象者の自己受容が促進されたことを表す語りが多数あったことを示して、有用性が確認されたことが説明された。

以上により、テーマの独創性、新規性が認められ、研究目的と方法、結果の一貫性について妥当と評価した。しかし、プログラムの有用性の検討に関する論文中の記載が不十分であることが指摘された。

修正すべき箇所はあるが、審査基準を満たしていることから、審査員全員一致で合格であると判断した。

修正事項

- 資料7に記載されているプログラムの実施マニュアルに基づいて、どのようにプログラムを実施したかを論文中に記載する。
- プログラムの有用性の検証に関する記述を追加する。

2023年9月6日

審査報告書

学籍番号：ND20001 氏名： 中村裕美

論文題目：

審査日時：2023年9月6日 14:00～15:30

審査場所：セミナー室 402

審査員：主査 岸恵美子 副査： 荒木暁子 伊藤桂子

審査概要：

本研究の目的は、摂食障害の好発年齢である中学生に対する摂食障害傾向に着目した自己受容促進プログラムの開発およびその有用性を検討することである。

本研究は、近年の摂食障害の発症が低年齢化し、予防的介入の必要性が認識されているにもかかわらず、具体的な支援方法は十分に確立されていないという課題に焦点をあてている。この現状をふまえて、中学生を対象に、摂食障害の発症と関連する社会文化的要因および心理的要因や痩せ理想の内面化に着目した介入プログラムの開発に取り組んだことに新規性が認められ、思春期の健康的な生活や認識を促進する活動に活用できることが期待できると考えられる。

研究方法は、第1段階で摂食障害の発症要因について社会文化的側面や心理学的側面の影響を明らかにするための面接調査を実施し、第2段階では先行研究を元に第1段階の結果を活用したプログラムを開発、第3段階ではプログラムの有用性の検討を行うことで構成されている。

第3段階について、プログラム実施中の発言やワークシートの記載内容、評価指標の3時点での比較結果から一定の効果があつたことが述べられた。これについて、データの比較による検証結果がプログラム自体の有用性と明言できるかが指摘され、プログラム後の感想などから対象者の自己受容が促進されたことを表す語りが多数あつたことを示して、有用性が確認されたことが説明された。

以上により、テーマの独創性、新規性が認められ、研究目的と方法、結果の一貫性について妥当と評価した。しかし、プログラムの有用性の検討に関する論文中の記載が不十分であることが指摘された。

修正すべき箇所はあるが、審査基準を満たしていることから、審査員全員一致で合格であると判断した。

修正事項

- 資料7に記載されているプログラムの実施マニュアルに基づいて、どのようにプログラムを実施したかを論文中に記載する。
- プログラムの有用性の検証に関する記述を追加する。